

赤羽公民館に掲示していただいている「五小の思い出、集めています」の呼びかけをきっかけに、地域の方から、五小に関わる貴重な写真をご提供いただきました。長い年月を越えて残されてきた写真が、今、もう一度、五小の紙面に戻ってきました。

一枚は、橋の前で撮影された集合写真です。写真の裏には、鉛筆で「五年 東京」と記されています。どのような行程で東京を訪れ、どのような思いで橋の前に並んだのか。写真だけから、その日の全てを知ることはできません。しかし、きちんと列を整えてカメラを見つめる子どもたちの様子からは、当時の学校生活の一場面が、静かに伝わってきます。

もう一枚は、かつての校舎を背にして並ぶ卒業写真です。写真の右下には、「昭和三十三年三月 小学校卒業」と記されています。とすれば・・・橋の前の写真は夏服であることから、卒業を迎える前年の昭和三十二年頃、五年生のときに撮影されたものではないかと推測されます。

この二枚に写っているのは、今からおよそ七十年前の五小の子どもたちです。当時にも、毎朝の登校があり、教室での授業があり、休み時間の笑い声がありました。友達と机を並べ、先生の話の聴き、行事に向けて準備をし、ときには迷いながら、それぞれの学校生活を送っていたことでしょう。



校舎の形も、服装も、学び方も、現在とは大きく異なります。それでも、友達と同じ時間を過ごし、学校で多くの経験を重ねていたことは、今の子どもたちと変わりません。写真の中にいる子どもたちも、かつては五小の教室で学び、校庭を歩き、卒業の日を迎えた一人一人でした。

その後、写真に写る方々は、それぞれの場所で年月を重ね、家庭や地域、社会を支える立場になっていかれたことと思います。そして今、一枚の写真となって、再び五小へ戻ってきました。写真の中の子どもたちと、今を生きる五小の子どもたち。生きた時代は異なっても、「五小で学んだ」という一点で、二つの時間が重なります。

古い写真は、過ぎ去った時代を示すだけのものではありません。そこには、現在の五小へと続いてきた、人の営みと学校の時間が刻まれています。今回ご提供いただいた写真は、五小が多くの子どもたちを迎え、送り出してきた学校であることを、改めて私たちに教えてくれました。

白黒で残されていた二枚の写真にも、当時の情景を想像しながら色彩を加えました。橋のたもとの空気、夏服の白さ、木造校舎のたたずまい。色が加わることで、記録の中にあつた昭和の一日が、私たちの目の前に少し近づいてきます。

白黒写真が伝える長い年月の重みと、カラー画像から想像される当時の学校の空気。二つを見比べながら、およそ七十年前の五小で過ごした子どもたちの時間に、思いを寄せていただければ幸いです。

これからも、地域の皆様からお寄せいただく写真や思い出を大切に受け取り、五小が歩んできた時間を、今の子どもたちと共有していきたいと思ひます。大切に保管してこられた貴重な写真を、このたびご提供くださったことに、心より感謝申し上げます。

⚠️ 今回掲載した写真は、ご提供いただいた方から公開の許可をいただいています。✅ 写真に写っている方々の個人情報に配慮し、学校で顔の部分に加工を施しています。✅ カラー画像は、白黒写真を基に推定して着色したもので、当時の色彩を正確に再現したものではありません。✅ 「五小の思い出集め」は、引き続き行っています。原則、ご提供いただく現品はお預かりせずに、その場で写真を撮らせていただいたり、スキャンさせていただいたりした上で、その場でご返却させていただきます。



学校で過ごす何気ない時間は、その最中には、なかなか価値に気付きにくいものです。いつもの教室、何度も通る廊下、友達とのたわいない会話。どれも、特別ではない毎日に見えるかもしれません。

けれど、時間がたって振り返ったとき、そうした何気ない場面こそが、自分を支える大切な記憶になっていたと気付くことがあります。学校で過ごした時間は、知らないうちに、その人の中に残っていくのだと思います。

朝、交わした挨拶。友達にかけてもらった一言。先生と一緒に考えたこと。休み時間に笑い合ったこと。そのときには通り過ぎてしまうような出来事も、年月を経ると、懐かしい学校の景色としてよみがえります。

学校の記憶は、特別な行事だけでつくられるものではありません。誰と出会い、どのような言葉を交わし、どのような気持ちで同じ時間を過ごしたのか。そうした毎日の中に、その人にとっての「五小」が形づくられていくのでしょう。

だからこそ、いつか思い返したときに、「ここで過ごしてよかった」と感じられる五小になるよう、今日という一日を、未来の大切な記憶につながる時間として、皆で丁寧に整えていきましょうね。

休み時間は短い

